

平成28年度 「大阪市中学校3年生統一テスト」における 東淀中学校の結果の分析について

大阪市による「大阪市中学校3年生統一テスト」について、平成28年10月6日（木）に、第3学年を対象として実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校がテスト結果やテスト結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、テスト結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

1 テストの目的

- (1) テスト結果を個々の生徒の評定（内申点）に活用し、平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜における調査書に記載する評定の公平性、信頼性を確保する。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。

2 テストの対象

- ・ 原則として、大阪市立中学校の第3学年
- ・ 東淀中学校では、第3学年169名

3 テストの内容

- ・ 国語、社会、数学、理科及び英語の5教科

平成28年度「大阪市中学校3年生統一テスト」検証シート

実施日 平成28年10月6日(木)

学校名	東淀中学校
生徒数(人)	169

平均正答率（点）

	国語	社会	数学	理科	英語
学校	61.3	49.6	48.8	52.2	48.3
大阪市	65.4	54.4	56.0	55.0	61.2

結果の概要

各教科とも大阪市平均を下回っている結果である。中でも数学・英語の2教科においては平均を大きく下回っている。得点分布においては各教科とも70%以上の正答率が大阪市の平均より低いこと、ほとんどの教科で49%以下の正答率が大阪市の平均より高いことがこの結果に反映している。領域・観点・問題別の分布においては大阪市全体の傾向とほぼ一定の値で低い状態であることがわかる。
今後も学力の継続的で全体的な定着が必要である。

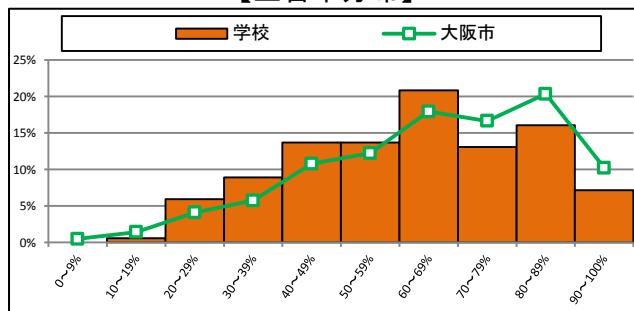
成果と今後取り組むべき課題

各教科とも全体的な学力の向上が必要であるが、国語については書く力を高めるとともに、図書室の利用を充実して、読書の習慣を身につける生徒を増やしていく。数学においては家庭での学習習慣を定着させるため、基本的な学習内容の継続的な指導を行っていく。英語についてはC-NETを通じて興味関心をためていく。社会、理科についてはICT機器や実験なども積極的に取り入れ各分野における生徒の興味・関心を高めていく。

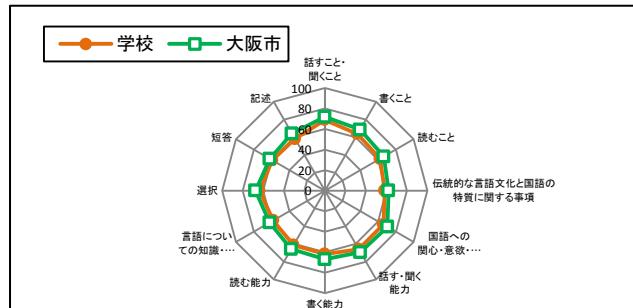
【各教科の正答率分布と領域・観点・問題形式別平均正答率の分布】

【国語】

【正答率分布】

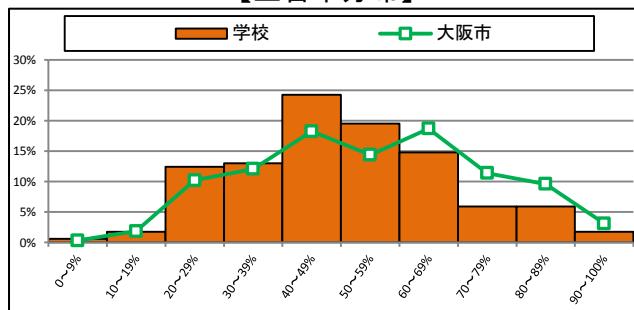


【領域・観点・問題別の分布】

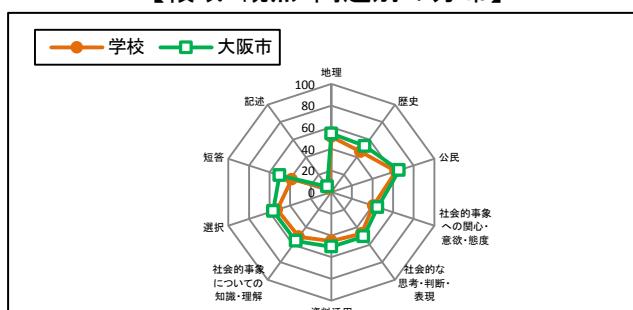


【社会】

【正答率分布】

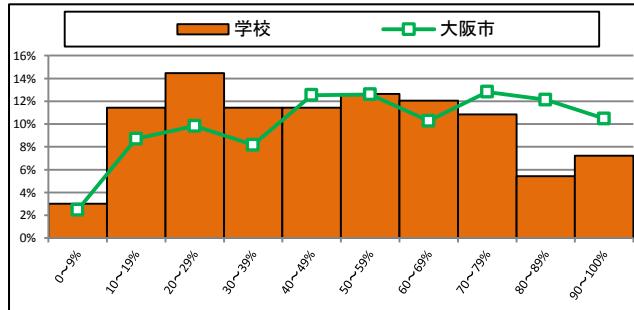


【領域・観点・問題別の分布】

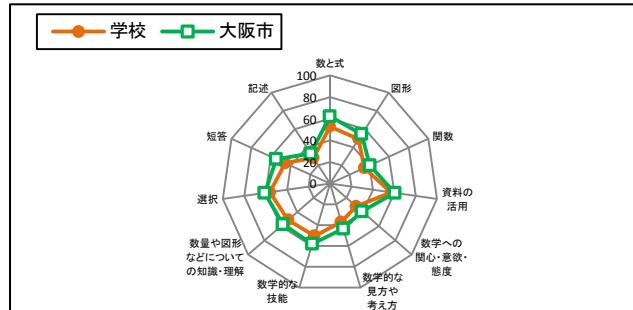


【数学】

【正答率分布】

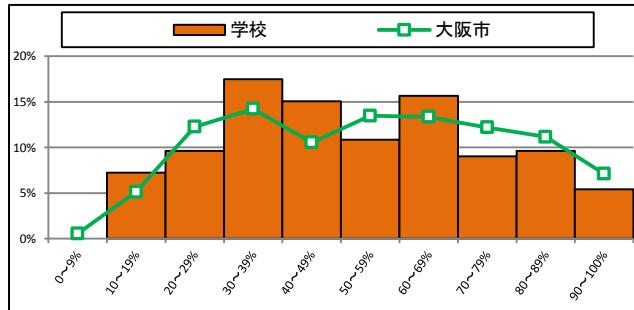


【領域・観点・問題別の分布】

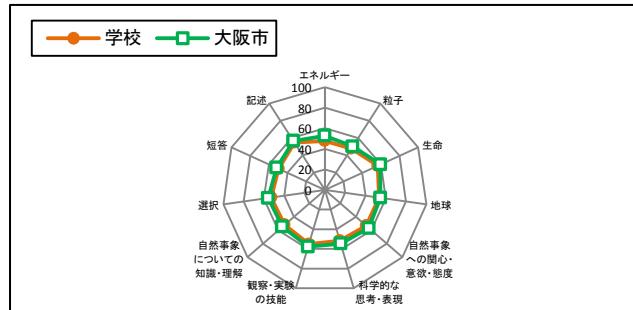


【理科】

【正答率分布】

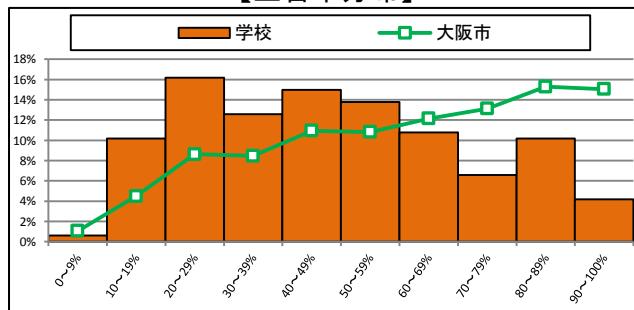


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【正答率分布】



【領域・観点・問題別の分布】

